

	INF	REF	こども	電話	メール	中央計	行徳	BM	南行	信篤	平田	駅南	全館計
9月	992	715	872	198	6	2,783	1,127	32	237	176	97	788	5,240
累計	6,708	4,673	5,100	889	38	17,408	7,001	254	1,309	1,192	679	5,782	33,625

INF:インフォメーション・カウンタ REF:レファレンス・カウンタ BM:自動車図書館

📄 今月のレファレンス記録票から

分類

質問と内容

I/D4 八幡神社の辺りでボロ市よりも前に行われていた“生姜市”について知りたい。

ボロ市については『市史研究いちかわ 第10号』（市史研究いちかわ編集委員会／編 市川市役所文化スポーツ部文化振興課 2019）p. 1-12に掲載の論文「市川市八幡の農具市」（加藤紫識／著）に詳しくまとめられており、生姜市としても触れられている。「近世期における農具市は、葛飾八幡宮の祭礼時に立つ市ということから八幡市と呼ばれる一方で、生姜が商われることから生姜市とも認識される側面があったことがわかった。その開催日や商われる品々は、近世期を通して大きな変化はないようである。近代になると「農具市」や「ボロ市」という語が見え始め、市の多様性が伺える。」（p. 10）とある。

同論文には関連する文献が時代順に挙げられている（p. 2-3）。

・『葛飾記』（1749年）「八幡宮」の項「8月15日は夥舗市立つ、（但し14日より17日頃迄也）諸国の大商集る。生姜まちと俗に呼ぶ。苧・真綿・絹布類、巷に満ち満ち、鮭桶は例年鳥居の辺りにて山のごとく、其香芳郁たり。見せ物・小芝居、かぞへ難し。其外、諸商・小間物類、貴賤群集する事、宛も合期難し（後略）」とあり。

・『葛飾誌略』（1810年）「祭礼。8月15日16日也。（中略）八幡祭として世に名高し。生姜、是亦此市の名物とする也」とあり。

・『江戸名所図会』（1836年）「葛飾八幡宮」の項「同（8月）14日より18日までの生姜の市あり。故に土俗生姜祭（しょうがまち）と唱ふ。マチは祭りの縮語なり」とあり。

・『成田参詣記』（1858年）には「八幡まちは（中略）この町多く生姜を鬻ぐ故に生姜町ともいへり」とあり。

以上の資料から、近世期（1749-1858年）には市で生姜を扱っていることが分かる。

また近代以降として、『千葉県東葛飾郡誌』（1923年）に近世期と変わらない盛大な市の様子が記されているが、生姜を取り扱っていたかは確認できなかった。

その他、『下総・八幡市 民俗研究 第22輯』（本山桂川／著 日本民俗研究会 1930）は昭和初期の八幡市について非常に詳しく、扱われている品目が店舗品別分類表に詳細に記されているが、生姜については記載がなかった。


C20.02 江戸川に鮎が生息していることがわかる資料はあるか。

『江戸川まるごと図鑑』（自然通信社 1997）p. 48には、「アユは江戸川に生息する魚の一種で、川でふ化した仔魚は海へ流下し、東京湾で冬を越す。春3月下旬～5月、7～8cmの稚魚は江戸川を群れなしてのぼる。石に付着する藻類を食べて成魚となり、10月頃中流まで下って、砂れき底や石に産卵し、1年で一生を終わる。」とあり。『江戸川・生きもの小図鑑』（自然通信社 2005）p. 11にも、「江戸川を代表する魚アユ」として、同様の記述あり。『市川市史 自然編 都市化と生きもの』（市川市史自然編編集委員会／編 市川市 2016）p. 239-241に、江戸川本流に生息する魚として鮎があげられており、「遡上する稚アユを生け捕りにして他の河川に放流する。それがそれぞれの川で「鮎釣り」のアユになる」、「江戸川水閘門の通過がアユにとっ

で最難関になっている」とあり、2005年には市民団体による「江戸川稚アユ救出作戦」が実施されたことや、「江戸川河川事務所」によるアユの遡上対策がなされている旨記述がある。国土交通省関東地方整備局「江戸川河川事務所」のホームページにも「アユの遡上環境改善の取り組み ～江戸川水閘門で行うH31年春の取り組み～」(<https://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/edogawa00999.html> 2019.12.24 確認)が掲載されている。江戸川河川事務所に問い合わせたところ、現在も鮎は生息しており、遡上のために毎春水閘門の開閉を行っているとのことだった。

686.5 昔、上野にあり今はなくなっている京成線の駅について知りたい。写真も見たい。

『京成電鉄の世界』(交通新聞社 2015) p.90-91、『東京消えた!全97駅』(中村建治/著 イカロス出版 2015) p.106より「博物館動物園駅」(所在地:東京都台東区上野)と分かる。1933年12月10日に「動物園前駅」で開業し、1945年6月10日休止、1953年5月1日営業再開、1973年6月16日から12月15日改良工事のため営業休止、1997年3月31日廃止を前提の営業休止、休止についての反対運動があったが、2004年4月1日廃止(廃止理由は利用減から)。『M in M project 1991-2001 博物館動物園駅の進化と再生』(若松久男他/編著 ミュゼ 2002)、『東京人 2019-3』(都市出版) p.124~132 「旧博物館動物園駅、眠りから覚める 二十一年ぶりに限定公開中!京成本線」(内田宗治/文、写真)には、写真が多数掲載されている。

 **G I V E U P !** ご存知の方はご教授下さい。

I/D7 1950年頃「真間の手児奈」という童謡のレコードを所持していた。童謡歌手の川田正子か古賀さとかが歌っていたように思う。歌いだしの歌詞は「真間の手児奈は花おとめ 人のなさけを知りました 泉にうつる……の ……人のこころにしてみました」であった。メロディーははっきりおぼえているが、歌詞はここまで。この歌をもう一度視聴したい(無理なら詳細を知りたい)。(質問者 80歳、小学生のころ聞いたとのこと。)

日本の童謡関係の資料にあたったが、該当するものはなかった。その他、これまで当館で調査した手児奈音楽関連資料や国立国会図書館が配信する歴史的音源にも該当するものはなかった。

国立国会図書館に調査依頼をしたが、国立音楽大学附属図書館の童謡・唱歌索引<https://www.lib.kunitachi.ac.jp/collection/shoka/shoka.aspx> (2019.12.24 確認)その他でも、歌詞の違う歌の収録のみで、所蔵は見当たらないとの回答だった。また、詳細も確認出来なかった。

他にもこんな質問ありました (クイック・レファレンスから)

分類	質問	⇒ 回答、補足事項、蘊蓄など
I/X3	中山法華経寺の「護代帳(ごだいちょう)」を見たい。	⇒『中山法華経寺史料』(吉川弘文館 1971) p.325にあり。
019	上皇后美智子様が以前、退位後に読もうと思っていると話されていた本はあるか。	⇒『ジューズ』は英国の作家P・G・ウッドハウスのコメディに出てくる天才執事の名前で、国書刊行会からシリーズ全14冊が刊行され、文芸春秋からも「事件簿」シリーズ2巻が出ている。
291.09	高倉健が書いた『あずま日記』を読みたい	⇒高倉健の5代前の先祖であり筑前の商家の内儀である小田宅子が江戸時代後半に関東を旅行したことを書いた『姥ざかり花の旅笠 小田宅子の「東路日記」』(田辺聖子/著 集英社 2001)を提供。
816.6	葬儀を行っていないで、香典を頂いた場合のお礼状の書き方が載っている本はあるか。	⇒『礼儀正しい手紙・はがきの書き方とマナー』(学研パブリッシング 2014)他。